

## 会長あいさつ

新型コロナウイルスの感染拡大による混乱は3年目を迎えました。『新しい生活様式』も定着する中、各学校とも歩みを止めることなく、前へ前へと進む努力が続けられていることと拝察いたします。未だ終わりの見えないコロナ禍ですが、私たち県小中体連も、県内全ての教職員が力を合わせ、関係諸機関・諸団体のお力をお借りしながら、各種大会や諸行事、学校体育研究などに取り組み、歩みを進めてまいりました。

暗中模索だった令和2年度の経験を生かし、令和3年度は、選手権・総体・新人戦の教育内3大会を実施することができました。また、全国中学校体育大会が関東ブロック開催の年でもあり、本県でもサッカーとバドミントンの2競技が行われました。関東中学校体育大会では柔道とハンドボールが本県開催となり、これも予定通り実施することができました。研究面では、6校の研究推進校が意欲的な学校体育研究に取り組み、それぞれの地域の研究活動をリードされ、そのうち甲府南中学校・東雲小学校・竜王北小学校の3校に授業公開を行っていただきました。さらに、第38回（公財）日本中学校体育連盟研究大会山口大会では、WEB開催ではあったものの、本連盟研究部が第3分科会における発表者を務めました。

それらを振り返れば、一つ一つの取り組みにコロナとの戦いがあり、開催の是非の検討から当日の細かな感染防止対策まで、長い時間と多くの労力を費やしてこられたものと思います。関係する皆様のご努力に深く感謝申し上げます。

令和4年度も本県の児童生徒の健やかで明るい未来のため、これまでの努力や工夫をさらに発展させ、安全で有意義な大会運営や研究活動など、学校体育の発展に向けて全力で取り組んでいきます。

また、コロナ禍における大会運営のほかにも、少子化による学校統廃合を受けた支部再編成や令和5年度より段階的に行われる部活動の地域移行、専門性のある部活動指導者の不足と部員数の減少、運動習慣の二極化と体力向上など、県小中体連には多くの課題が山積しています。これらの課題にも真摯に向き合い、努力と研究を積み重ねていきたいと思っております。

今後も、本連盟の各組織が一致団結し、より一層の前進、進歩を遂げられますよう、諸先生方のお力をお借りいたしますとともに、関係諸機関・諸団体等のご理解とご協力をお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

山梨県小中学校体育連盟 会長 菅谷 信